

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「桑の実」
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県気仙沼市唐桑町只越346-19
記入者名 (管理者)	管理者 帛 岩 健 一
記入日	平成 20 年 12 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所の理念を職員全員で考え、独自のものとなっている。利用者の方々が安心して地域で暮らせるように、理念を柱に考えつくりあげている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>利用者の方々に、サービス提供する場合において、職員全員がひとつになり、理念の実現に向け前向きに取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>利用者の方々が、ホームで暮らす意義や、地域で暮らし続けることの大切さを理解してもらえるように、理念の啓発、広報に取り組んでいる。桑の実だよりを発行し、家族や地域の方々に配布している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>管理者や職員は、近隣の方々や商店で合う方々等とのコミュニケーションを常日頃に行っていて、利用者の方々に対しても、気軽に声をかけ合ったり、お茶飲み等来ていただくように努めている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域交流の機会があれば、常に参加し、地域の行事や活動を通し人々との交流の機会を多く持っている。月に2～3回ほど地域ボランティアさんの支援もあり交流に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者の方々が、新聞紙やチラシ等で折って作った小物入れの箱を、他の施設やデイサービスに届け使っていただいたり、文化祭等に、箸置きを作成し展示したりし、地域の高齢者にやる気を持てるような取り組みをしている。</p>	○	<p>今後とも、職員間で話し合いを持ち、利用者を中心に小物入れの作り方等を地域の高齢者の方々に、作り方を指導したりし取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価の意義を理解し、自己評価を職員全員で評価し、現在の在り方を見つめ直し、できていない点等を改善する機会であり、外部評価で、きずかない点の指摘を、改善計画を立て、実施に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、評価への取り組み状況について、事業所から報告することどまり、意見をサービス向上に活かされていない。</p>	○	<p>運営推進会議について、まだ活かされていないので今後は年間計画として定期きで開催するようにする。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当者の方保健師等と情報交換等したり、指導監査の時や認定調査に訪れた時等、お話する機会をつくりサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関しては、社会福祉協議会で支援している。職員は、地域で行っている講演会や研修会にできるだけ参加し、学ぶ機会を持つようになっている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止について、職員が正しく認識するよう研修会等に積極的に参加し、身体のみならず言語による虐待等も職員間で注意を払っている。研修に参加した職員は、連絡ノートや、スタッフ会議等で研修内容を報告し、職員全員で虐待が見過ごされないよう注意を払い、虐待防止を徹底している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、十分な説明をし、疑問な点は何でも聞いてもらい理解・納得していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方が何でも言えるような雰囲気づくりをしている。利用者の方には、不満・苦情等なんでも言ってもらい検討し改善するようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通院・薬を届けてもらう等、面会の機会が多くあり、暮らしの様子、ホームでの様子、健康状態等はその時に話をする。定期的に「桑の実だより」を発行している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会・地域交流会・福祉祭り等、家族や外部との交流の機会を多く持つようにして、どんなことでも、何でも気軽に言ってもらえるようにしている。意見は運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的にスタッフ会議を開き議題を持ち寄り、意見・提案を職員全員で検討し運営に反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の家族の状況の変化・要望に柔軟に対応している。職員を確保する為の話し合いや勤務の調整をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は最小限であり、馴染みの職員が多い。職員の移動時は、利用者と一緒に送別会をする等し納得できるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員の介護技術の向上の為、OJT及び研修を受ける機会を確保している。	
に	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気仙沼・本吉地方介護サービス連絡協議会に加盟しており、グループホーム研修会等を、年数回開催してネットワークづくりや勉強会、相互のイベントに参加し活動を通し、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員に対しホーム訪問の際、職員一人ひとりから取り組みについての不安等を聴きアドバイスしたり、年に、何回か慰労会等を行いストレスの軽減に取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、たびたびホームに来て、管理者や職員に対し、状況の把握に努め、職員に対し励まし及び研修等の参加を積極的に促し各自が、向上心を持って働けるように努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族や関わりを持つ方からの意見も参考にし、本人の要望、困っていること、不安に思うことや求めることを聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族等がホームを見学にみえた時等には、まず話をうかがい、その後、利用者宅等へ出向き、ご家族の話を聞く機会を設け困っていること、不安なこと、求めていることを聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望やどのようにして欲しいのかをお伺いして、どうしたら本人にとって一番よいのか検討し、ご家族が安心できる対応・支援を見極め、他のサービス利用も視野にいれ対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、管理者が面会に行きホーム説明や見学等してもらい、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるように、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その方が、現在あるいは昔、得意なこと等はその方に教えていただいている。また、常に感謝の気持ちを持ち、言葉や態度であらわすようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際には、連絡事項だけで終わらせず、ご家族のお話や悩み等をよく聞き、受け止めるようにしている。また、ホーム側からも相談したりすることで、共に支えていくという関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の生活歴、ご家族の話などから、その関係の理解に努め、橋渡しできるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで、馴染みの人や場所を訪ねたり、会話の中に話題として出すことで、記憶に残したりして、その関係が途切れないように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の支え合いまでは難しい状況だが、利用者同士の関係やその時どき雰囲気をスタッフが理解して、仲に入って橋渡しをしたり、時に離れて見守ったりして、いい関係を築けるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近所であり、顔を合わせた時に挨拶したり、近況を聞いたり、気軽に声をかけ合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見を受け入れ、その意見をスタッフ会議等で検討し把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、生活歴やこれまでの暮らし方を聞いて、生活環境が極端に変わることのないように把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録・連絡ノート等を活用し、一人ひとりの現状を職員間で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し、情報・意見を取り入れ、個別に介護計画を作成している。家族や関係者等の面会時には、意見や要望を聞いて介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回3名のケアプラン見直しをしている。家族に説明し、同意をもらい、印をもらっている。変化がある時はその都度、ない時でも月1～2回は家族と連絡をとり合い現状に即した介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を日勤者、夜勤者共に、一人ひとりを具体的に記入して、引き継ぎのとき、情報を申し送りして共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等は、家族にお願いしています。本人や家族の都合に合わせて外出・外泊してもらっている。いつでも面会や外出・外泊ができるように、事前に連絡をとり合い対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1～2回、ボランティア(コスモス会)が来て、お話ししたり、工作、手芸、調理や畑作業等を一緒に手伝ってくれる。又、広報誌を地区の方が持ってきてくれたり、消防訓練、実習生・見学者の受け入れをしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のグループとの交流やデイサービスに行き、一緒に演芸をみたり、カラオケをしたりする。市保険福祉課の言語訓練を利用者2名の方が受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、地域包括支援センターに相談に行ったり、話し合いをしたりしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方々全員、今までのかかりつけ医を受診している。必要に応じて、それぞれ歯科、眼科等本人の意向で受診している。受診の際は、バイタル表、ご本人の状態を記入した書類をもって行ってもらおう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>寝たきりになった方の過ごし方やケアのあり方(入浴ができない、移動ができない等)どうしたらよいか検討している。 入浴⇒清拭、エアーマット使用など。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者1人ひとりに尊重した呼び方、対応に心がけている。入居者の了解を得て居室に入出入りしている。個人記録や個人情報・メモは他者に見られないように厳重に注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分から希望や思いを表てに出せる方には、それを傾聴し、支援している。言葉が出にくい方、表に出ずにいる方には、こちらから働きかけたり、ゆっくりと考えてもらったりして、自己決定できるよう支援している。	○ 一昨年まで改善点にあげていた居室へのテレビ設置については、昨年よりそれぞれの希望に添うことができるようになった。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・入浴・食事時間等、本人のペースに合わせている。ホーム側から強制する事はない。散歩・買い物等もその日の希望に応じている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力も得ながら、本人の馴染みの店に行ったり、訪問美容等利用したりして、理美容できるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・食事・片付け等入居者と共に行い、楽しい雰囲気や心を心がけている。一人ひとりにあった食べやすいメニュー等、工夫している。(量・味付け・きざみ等)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別に買い物へ行き、いつでも好きなものが食べられるよう支援している。牛乳やおやつ等、個々に購入している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	他者の視線を気にかけてトイレへ行かない方には、気づかいをしながら排泄の声掛け。排泄の失敗などあった場合は、安心していただけるような配慮した声掛けし対応している。	○	トイレの出入口に他者の視線を気にしなくていいように工夫した。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人個人の意見を尊重し、温度調節、入浴の順番、時間帯、洗髪・洗身の仕方など対応にあっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不安を少しでもやわらげられるように、お部屋に付き添ってあげたり、ご家族の協力のもと電話で話したりして、安心して眠れるよう支援している。また、ゆっくり映画などを観て好きな時間に眠れるよう個々の生活習慣に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味(読書・カラオケ等)や特技(料理・裁縫・箱作り)を中心に活動を支援している。その際には、昔(当時)の話をまじえたりして、回想しながら、一緒に楽しみ・喜びを分かち合うように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にお預かりしている他に、その方の希望や力に応じて、個人で所持し、それで買い物ができるよう支援している。また、お金は金庫にお預かりしていること、いつでも出して使えることを随時伝えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みの店に買い物に出掛けたり、毎月購入している本などを発売日に買いに出掛けたりと、利用者さんの希望に沿って出掛けている。また、馴染みの場所や町に車で出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車でなければ行けない高田のお寺や見晴らしのいい山頂などに皆で出掛けたり、漁船員だった方が昔懐かしいお話などを積極的に話されるよう、岸壁まで個別にドライブに行くなどそれぞれに合わせた外出の機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望する時は、電話をかけた手紙のやり取りも行っている。特に、贈答品のお礼等は近況報告もかねて本人の声を相手に直接聞いてもらうように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人等、本人の馴染みの方々が訪問時には、楽しく過ごして頂けるようにホール・相談室・個々の居室等をプライバシーに配慮し随時利用いただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束することなく一人ひとりの様子・行動を把握し援助しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠することなく、一人ひとりの様子・行動を把握している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時、一人ひとりの様子・行動の把握に努め、安心して生活できるように対応しています。(外出願望のある方に対しては、見守りや付き添う等、対応しています。)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物・洗剤・薬品等は、保管庫・倉庫に入れて施錠してまます。個人所有物品(ナイフ・裁縫用具)は、職員が把握し、危険と判断した時は回収することとする。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬については、チェック表を作成している。外出願望の強い方については、地域・近隣・警察へチラシを配り、協力頂けるように依頼しております。	○	利用者の高齢化に伴い、筋力低下が見られる利用者の個室に手すりを設置し転倒防止に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に訓練を行ってはいないが、職員全員が普通救命講習修了証を所持し救命技能の維持・向上のため、反復して講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	最低年2回避難訓練を実施している。消防署員に来ていただき、避難通路の確保や消火器の点検、各入居者の居室内点検をしていただいている。注意点等、指摘されたことは改善できるよう努力している。	○	地域の人々の協力を得られるように働きかけしているが、避難訓練等の参加をお願いしていきたい。又、夜間の避難訓練は、実施していないので今後実施したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	考えられるリスク等はご家族へ説明し、納得してもらっている部分が多いように感じる。ご家族は本人の意思に任せるという方が多い。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日必ずバイタルチェックを行っている。熱発者をはじめ、どんな小さな変化でも、スタッフ間での情報交換は密にしている。体調不良の方がいる時、体調不良になった方がいる時は、看護師に報告、指示を仰ぎ、全員がそれを守り、行動している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前・食後・各入居者のタイミングをみながら、与薬している。夜勤者が次の日の薬(全員分)を準備するのだが、与薬する職員もそれぞれが服用する薬を確認して渡すよう、二重に注意している。服用したらチェックする等確認し、飲み忘れがないようにも気配りしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	特に便秘の入居者はいないのだが、おやつにヨーグルトを提供するなど気を配っている。水分や食事(野菜を多く)の面でも注意している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きは自立している人に関しては、本人にお任せしている。麻痺のある方は介助し、支援している。口臭など気になる方には、ポリドント等を購入してもらい、清潔保持に努められるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の業務に、食事量・水分量・排泄回数等を一人ひとりチェックし、栄養のバランスや状態管理し支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防マニュアルを作成し、県・市及び保健所の指導も徹底し対応実行している。週に1回、市保健所に感染症の報告もしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の管理(賞味期限)・布巾・まな板・包丁の定期的な殺菌消毒等を行い、冷蔵庫・洗濯機の定期的な洗浄や掃除を徹底し、食品は、前日に買い出し新鮮で安全な食材の使用に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに、丸太作りのベンチ等を設置しご家族・近隣の人利用者とくつろげるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で、見慣れたものや使い馴染んでいるものを使用し、生活感・季節感を考え居心地の良い空間作りの工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を、何箇所か独りになることのできるように配置したり、相談室を利用者に開放し一人ひとり過ごせる居場所の工夫や気のあう利用者同士が過ごせる工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用していた家具類をはじめ、身近なものを居室に配備し、画一的な居室にならないよう工夫している。住む場所が変わっても、生活が切り取られないように支えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室24時間換気設備が導入されていれ、空気循環されている。また、朝の掃除時には、窓を開け、新鮮な空気を直接取り込むようにしている。エアコンが設置され、年中快適に過ごせるよう調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは手摺りが設置されているが、利用者の高齢化も伴い、各居室にも手摺りを設置し、より安全性を高めた。トイレや浴室、居室は分かりやすい表示方法を工夫し、自立した生活を営めるよう努めている。	○	今後とも、利用者の状態に応じて手すりを設置したりし安全性を高めたり、自立支援に努めたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各々の状況に応じて、声掛け、見守り等支援を行い、わかる力を最大限に活かしていただけるよう支え、できることの達成感・満足感を感じていただけるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇作りを行い、作物を収穫し、花をめで、季節の移ろいを感じられるよう努めている。また、ベランダは物干し竿を設け、利用者が、洗濯物や布団を干せるよう暮らしを大切にできるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の理解を頂き、協力体制を確立し、地域に溶け込んだ事業所を目指していきます。環境に恵まれ、四季折々に楽しめる場所であり、地域の方々とのふれあい、支え合いが、自然とできてきている。ボランティア団体の方々の、ご協力もあり利用者・職員とも笑顔で暮らしています。